

平成 29 年度研究助成 研究実績報告書

代表研究者	金澤 豊
研究テーマ	自然災害時における仏教者の対人支援研究

本研究は、東日本大震災により被災した人々の苦悩を和らげるための取り組みの一環として実施した。岩手県陸前高田市の仮設住宅を定期的に訪問する任意団体「陸前高田市傾聴ボランティア ころのもり」の活動を宗教者としてサポートする中で、仏教者独自の役割を抽出検討した。

まず、災害時の仏教者の役割として見据えるべきは、社会を変えるような規模の支援ではなく、一人ひとりに向き合う対人支援に注力する重要性を示し、中でも被支援者の苦悩の要因を見据えて活動に従事することである。その姿勢は仏教における基本教義（四諦八正道）と一致することを明らかにした。加えて、仏教者として二つの具体的な役割を提案することができた。第一に被災寺院の仏教者を来援の仏教者がサポートすることである。地域において指導的役割を果たす人々へのサポートは手薄であり、孤立しがちになる。そこで来援の仏教者は、被災寺院の仏教者の思いを受け取ることで現実的な支援と、精神的なサポートを施すことが可能であると指摘した。第二に、後世に震災津波の教訓を残すために、地域に根付いた寺院を活用することを提案した。なお、第二の成果は、第 36 回日本自然災害学会学術講演会（2017 年 9 月、長岡市）で「陸前高田市における災害モニュメントと宗教者の役割」と題して公表済みである。

本助成によって他の宗教者による支援活動の情報収集や、シンポジウム、連絡会への参加が可能となり、対人支援における仏教者独自の役割を明らかにする研究の基盤づくりが実施できた。また、2018 年 1 月には岩手県大船渡市より、当地の新聞記者を招聘し「悲嘆を抱えた人々のために—記者の役割、宗教者の役割—」と題した一般講演会を開催することができ、多くの人々に震災後 7 年たった被災地の現状を知り、これからを考える機会を設けた。さらに、講演会を冊子化したことで、継続的な学習が可能となり、2018 年時点での記録として価値を有することが見込める。

これらの成果が、現在進行形で頻発する自然災害時の対人支援者に僅かでも寄与することを望む。